

市民病院は、地域の医療・福祉の砦にとりで



平成17年4月24日、南行徳市民センターにて市民集会

浦安市川市民病院の概要

浦安市川市民病院は、浦安市と市川市が出資して造った病院です。

診療科目は、内科、外科、小児科、小児外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、臨床病理科、形成外科、放射線科、精神科の16科に及ぶ総合病院です。

平成14年には地域医療部と在宅介護支援センターを創設し、訪問医療・看護、人間ドッグ、介護相談、リハビリ機能の充実など、地域の保健・医療・福祉の拠点となるよう努力しています。

予算と運営のあり方については両市の議員5人ずつ10人の病院組合議会で決定します。

現在、病院の老朽化に伴う建て替えと地域での医療の位置づけ、運営のあり方について病院運営協議会などで見直しの検討が行われています。

自治体からの「繰入金」は市民に必要な医療提供の保障

市川市長は、毎年両市から計約10億円の繰り入れをする「赤字」体質の解消が必要と強調しています。

しかし自治体病院は全国でも7割近くが赤字です。それは、採算が取れなくても市民の健康に必要な医療を行うためです。その為に地方公営企業法では自治体病院への自治体からの繰り入れ基準が定められています。

市民病院への繰入金金は10年前より5億円減っています。最大の問題は自治体病院として市民に喜ばれる医療体制になっているかです。

医師・看護師の体制強化で質の高い医療提供に全力を

日本共産党が行なったアンケートには、「市民病院らしく、患者と家族の立場に立って丁寧に対応して欲しい」「医者の交代を少なくして欲しい」「この頃良くなってきた。公立病院は必要。いい病院にして欲しい」など、公的病院への期待がたくさん寄せられています。

市民病院は訪問医療やリハビリの充実など地域の保健・医療・福祉の拠点として努力していますが、患者の減少が深刻化しています。

最大の問題は医師の不足による受け入れ体制の弱さです。医師の半分が非常勤で、研修費も削る等、採算重視の路線が目立ちます。

拙速な民営化路線はやめるべきです

病院議会や病院運営協議会では民営化の方向性が強く打ち出されています。

患者は減少しても常勤医師が少ない為、繰入金も低い市民病院(平成15年度)

病院名	浦安市川市民病院	千葉市海浜病院	船橋市医療センター	松戸市立病院
病床数	340床	301床	426床	623床
入院外来収益	44億3728万	54億3526万	90億20319万	122億5246万
100床当りの医師数	13.3人	19.9人	19.7人	20.3人
自治体からの繰入金	12億円	14億885万円	17億9千万円	13億2975万

しかし、患者負担が増え、医療費が払えないなど「医療格差」が広がっていると、医療・福祉の砦としての公立病院の役割はますます重要です。

拙速な民営化を止めさせ、地域住民の期待に応えて、医療体制を充実させるよう働きかけましょう。

日本共産党「市川浦安」市議団とともにこの間にとりくんできた主なこと

- ・ 市民要求アンケート調査
- ・ 訪問聞き取り調査
- ・ 医師会のみなさんとの懇談、意見交換
- ・ 自治体病院の課題について日本医労連を訪問学習、意見交換
- ・ 南行徳市民センターにて、市民集会
- ・ 病院議会、病院運営協議会での論戦
- ・ 病院長、事務局長への申し入れ

市民の声とりあげ実現した主な施策

- ・ リハビリの充実
- ・ トイレの改修
- ・ 土曜診療の拡大
- ・ 待ち時間短縮システムの導入
- ・ ホームページ、市民病院だよりなどの市民への情報拡充
- ・ 待合室のプライバシー確保
- ・ 売店を異動改築で改善
- ・ 図書館の院内分室設置
- ・ 在宅(訪問)医療の拡大



南行徳地域のまちづくりを考える会

連絡先 大久保(396)3497 谷藤利子090・7250・7852
日本共産党市議会議員 浦安市川市民病院議員